研究ノート

伴奏音が舞踊観賞に与える影響（第1報）

本多弘子・鈴木敏明・川口鉄二

I　はじめに

原始時代には，舞踊と音楽は不可欠のものであった。しかし舞踊と音楽がともに発達すればするほど，両者の芸術性は独特のものとなり，その相違が大きくなってきた。

こうしたことから，既成の音楽はもとより，舞踊のために作りあげられた音楽でも，創作者と作曲者のイメージが，必ずしも一致するとはかぎらず，舞踊にとって伴奏音とはなりえないばかりではなく，むしろ創作舞踊の障害となることさえある。

しかし人間は，音楽を伴う身体運動の場合，無音よりもリズミカルな運動ができ，しかもその運動の持続性も高いこと[1)2)3)4)]。また特に初心者では，一定の運動を繰り返し行う時，運動の時間的経過に伴い心拍が増加する。すなわち運動強度が高くなる[5)]。更には，音楽があった方が楽しく運動ができる等[6)]，音楽の有効性が実証されている。

また音楽は，踊る者にとってだけではなく，見る側，すなわち観賞者にとっても聴覚的刺激による感情の高揚や，自由な想像の世界を広げる誘因として大切な存在と考える。

邦[7)]は，伴奏音に関する実験の中で，無音による舞踊創作ならびに，騒音音楽（打楽器による演奏）による作品を観賞させた場合，舞踊観賞者に強い緊張が加わり，感情的に呼吸する余裕さえ与えなかった。創作舞踊ではいろいろな音とリズムを駆使し，舞踊の観賞的効果を得られる工夫がなされるべきだと述べている。松本[8)]は「鑑賞者は目で踊りを見，耳でその音楽をとらえて一体となって受容する。表現が表現者と観賞者との間に行われるよきコミュニケーションであるためには，当然聴覚側の刺激も大切にされなければならない」。また舞踊の鑑賞に関する研究の中で，観点のひろがりでは，作品を印象づける要因として音はかなり有力に働いているとみられる[9)]としている。

そこで筆者らは，中学生ならびに高校生を対象に，在仙舞踊家による小作品12作をビデオによって観賞させ，聴覚的刺激すなわち伴奏音を伴った場合と無音の場合では，作品の意図が客観的にみてどのように伝達されるかについての実験的研究を試みた結果，若干の知見を得たので報告する。

II　研究の方法

1.　創作テーマの選定と作品構成

実験に使用した作品のテーマは，「喜・怒・哀・楽」という伝統的な感情分類（表1）を考慮しつつ，Osgood et al.[10)]（1957）等や，岩

表1　感情分類表

感情分類（カテゴリー）	表現テーマ（TP）
喜	ユーモラスな感じ，力強い感じ，明るい感じ，
怒	冷たい感じ，ねっとりした感じ，激しい感じ，抑圧的な感じ，
哀	哀調のある感じ，重々しい感じ，弱々しい感じ，
楽	柔らかな感じ，甘い感じ，

下[11]（1979）による情緒的意味についての一連の因子分析的研究を枠組として，ダンスによる情動表出の全体を偏りなく代表すると思われる12のテーマを選定した。作品の創作は，仙台市内でモダンバレー研究所を主宰する女性舞踊家に依頼した。演者は同研究所で10余年の舞踊歴を持つ若手舞踊家である。なお作品の長さや音楽の選定等については，創作者に一任した。

テーマごとの作品の長さ，使用した音楽および作品のイメージは表2に，また踊りを代表する動きは写真に示した通りである。収録は，同研究所内のスタジオで専門のカメラマンに依頼して行った後，実験用に編集した。

2.　被験者および実験期間

被験者は，宮城県南部に位置するS町立F中学校2年女子生徒84名と仙台市内の県立S女子高等学校3年生174名である。

両校ともに，実験時の前学年で「創作ダンス」の指導を受けている。ダンスへの関心度（表3）は中学生で「きらい」と答えたのが14名（16.7%）であり，他は「好き」あるいは「普通」と答えていることから創作ダンスへの関心度が高い集団であると思われる。

また高校生では「すき」あるいは「普通」と答えたのが106名（60.9%）であり，一般的に高学年になるにしたがい感情表現を不得意とす

表2　実験に使用した作品

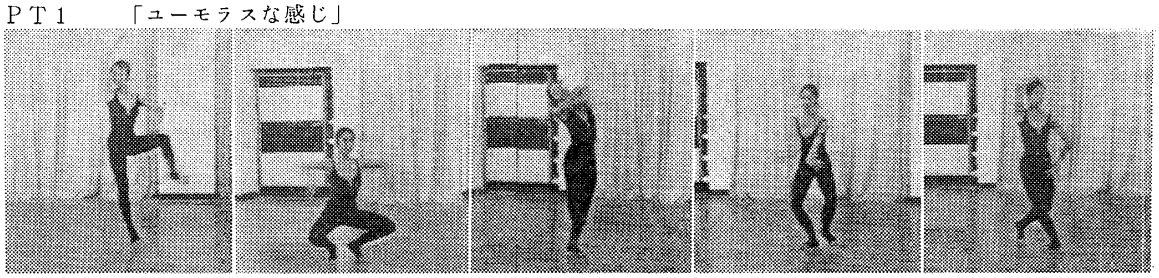
No.	表現テーマ（TP）	作品の長さ	使用した音楽	イメージ
1	ユーモラスな感じ	1分02秒	S61年度公演作品“ロボット„より	機械的，おどけ
2	哀調のある感じ	1′ 14″	田園詩	内面にひそむ哀しみ
3	ねっとりした感じ	39″	S59年度公演作品“行列„より	葛藤，ねたましい
4	冷たい感じ	1′ 06″	S62年度公演作品“そこから„より	直線的，冷淡な関係
5	重々しい感じ	1′ 10″	S62年度公演作品“枕辺の花„より	現実逃避，なげき
6	弱々しい感じ	2′ 36″	S61年度公演作品“アルプスの雪„より	かすかな余韻，繊細
7	力強い感じ	1′ 06″	S58年度公演作品“ひびき„より	男性的な強さ，挑戦的
8	激しい感じ	1′ 06″	TOP—GUN	エネルギッシュ，若さ
9	明るい感じ	35″	S55年度公演作品“フィーバー„より	解放的な明るさ，自由奔放
10	柔らかな感じ	1′ 04″	S62年度公演作品“海をみつめて„より	麗らか，優しい
11	甘い感じ	1′ 27″	S62年度公演作品“春の香りをきる„より	彼方への希望，一途な思い
12	抑圧的な感じ	1′ 26″	S62年度公演作品“カルメン„より	情念，孤独感，情愛の深さ

表3　被験者のプロフィール

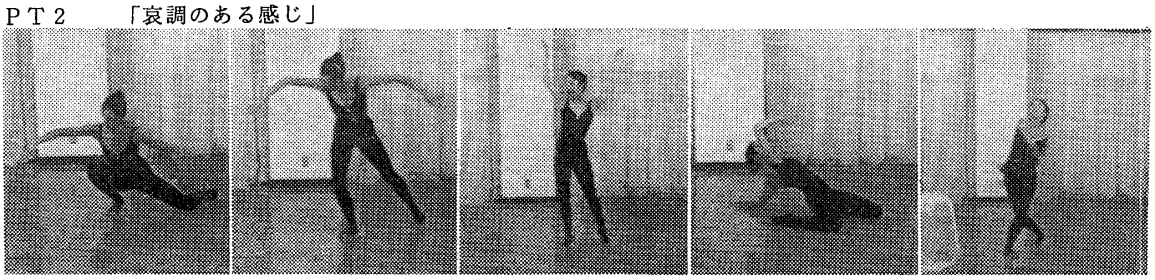
学校名	被験者数			創作ダンスへの関心度		
	被験者	M群	NM群	すき	普通	きらい
F中学校	84名	41名	43名	33名 (39.3%)	37名 (44.0%)	14名 (16.7%)
S女子高等学校	174名	88名	86名	59名 (33.9%)	47名 (27.0%)	68名 (39.1%)
合計	258名	129名	129名	92名 (35.9%)	84名 (32.6%)	82名 (31.7%)

テーマごとの動きの一部

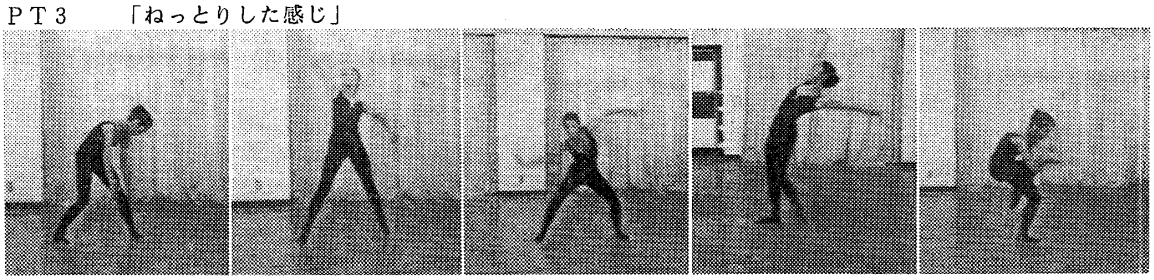
ＰＴ１　「ユーモラスな感じ」



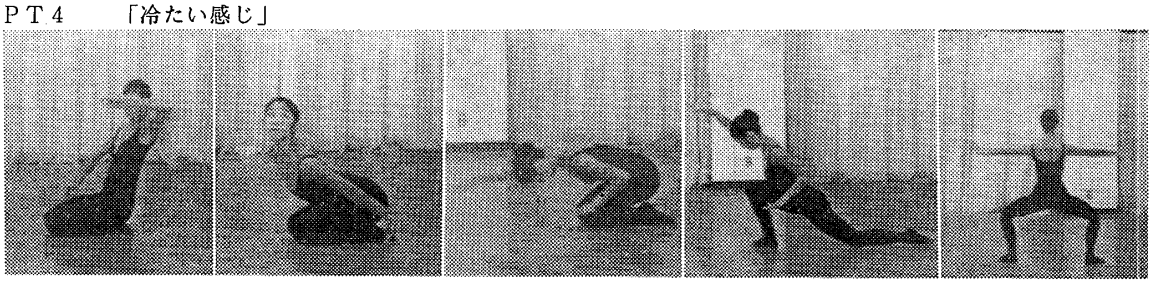
ＰＴ２　「哀調のある感じ」



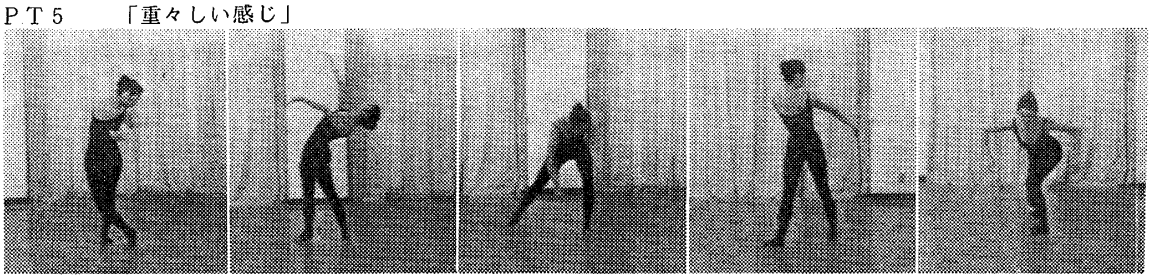
ＰＴ３　「ねっとりした感じ」



ＰＴ４　「冷たい感じ」

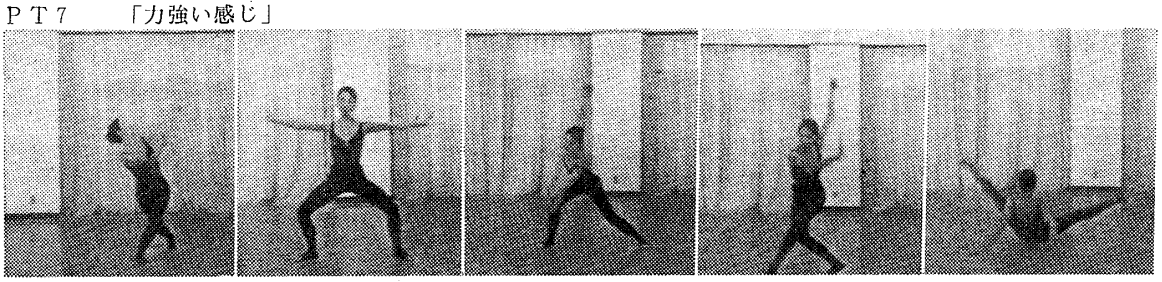


ＰＴ５　「重々しい感じ」

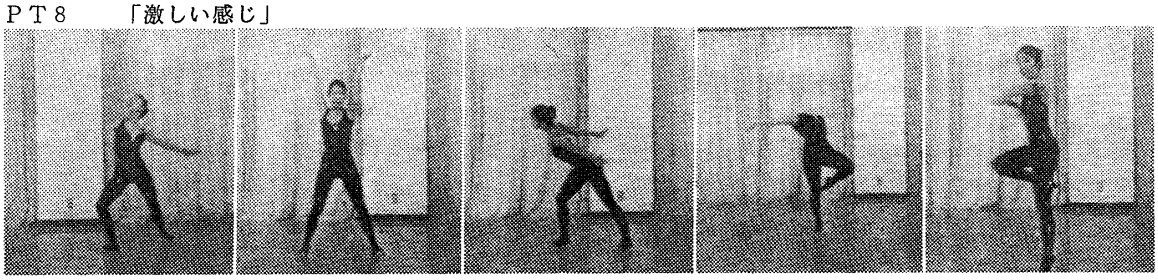


ＰＴ６　「弱々しい感じ」

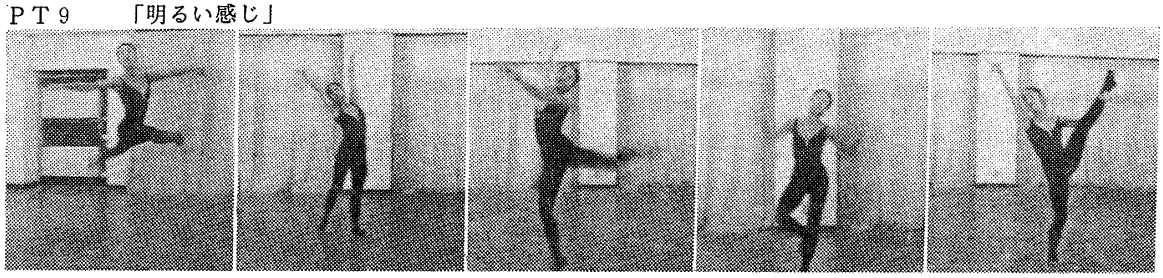
ＰＴ７　「力強い感じ」



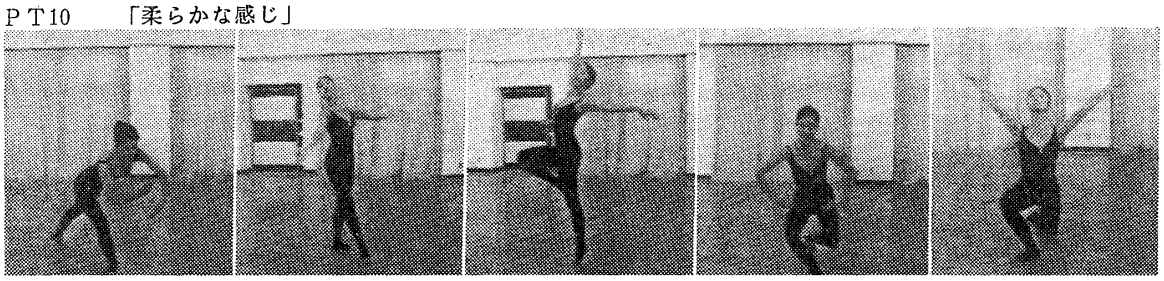
ＰＴ８　「激しい感じ」



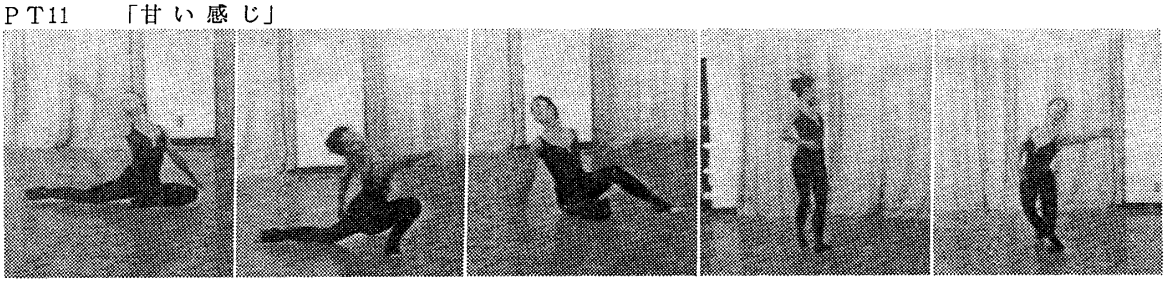
ＰＴ９　「明るい感じ」



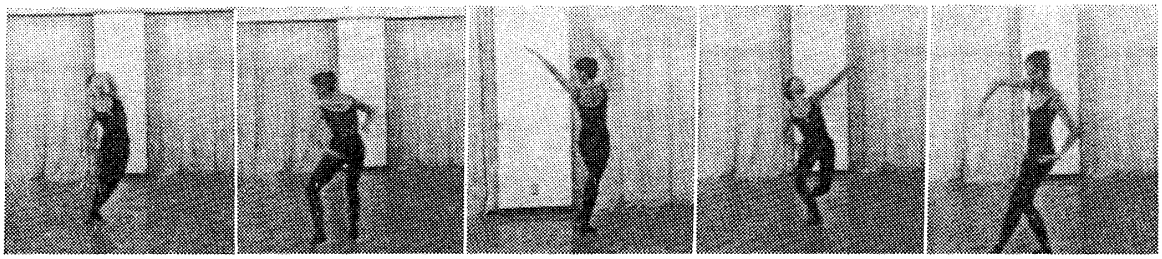
ＰＴ10　「柔らかな感じ」



ＰＴ11　「甘 い 感 じ」



ＰＴ12　「抑圧的な感じ」



る傾向が見られる中にあっては，比較的関心を示している集団といえよう。

実験期間は次の通りである。

Ｆ中学校　昭和63年２月５日
～２月10日

Ｓ女子高校　昭和63年７月12日
～７月15日

3.　実験方法

全被験者を，伴奏音を伴った舞踊を観賞する群（以下M群と略記）と無音での舞踊を観賞する群（以下ＮＭ群と略記）に分け，クラスごとに体育の時間を利用し，視聴覚室で観賞させた。無音による観賞は，ビデオ再生の際，音を完全に消して映したものである。

使用したモニターテレビは，中学校では27インチのもの１台，高校では19インチのもの２台である。２台使用したのは画面の小さいことを補うための処置である。

実験では，個々のテーマは伏せたままで同一の作品を続けて提示した後に，回答用紙の中から最もよく当てはまると思われるテーマ名を選択させる方法をとった。

III　結果と考察

1.　観賞についての比較

(1)　中学生と高校生の比較

創作者が表現を意図したテーマ（以下ＴＰと略記）と被験者がビデオによる作品観賞後，受容・認知したテーマ（以下ＴＲと略記）との相関は表4,5に示す通りである。それによるとＴ

表4　中学校全被験者の TP と TR の相関図

受容・認知テーマ（TR）／表現テーマ（TP）	無答	ユーモラスな	哀調のある	ねっとりした	冷たい	重々しい	弱々しい	力強い	激しい	明るい	柔らかな	甘い	抑圧的な	合計
ユーモラスな感じ	0	74 88.1	1 1.2	2 2.4	1 1.2	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	3 3.6	2 2.4	0 0.0	0 0.0	84 人 100.0%
哀調のある感じ	0	1 1.2	14 16.7	18 21.4	4 4.8	23 27.4	7 8.3	1 1.2	0 0.0	0 0.0	6 7.1	1 1.2	9 10.7	84 100.0
ねっとりした感じ	1	0 0.0	2 2.4	0 0.0	2 2.4	2 2.4	0 0.0	6 7.2	65 78.3	1 1.2	0 0.0	2 2.4	3 3.6	83 100.0
冷たい感じ	1	7 8.4	8 9.6	1 1.2	11 13.3	7 8.4	3 3.6	3 3.6	0 0.0	3 3.6	2 2.4	1 1.2	37 44.6	83 100.0
重々しい感じ	0	0 0.0	19 22.6	9 10.7	12 14.3	11 13.1	17 20.2	4 4.8	0 0.0	0 0.0	5 6.0	1 1.2	6 7.1	84 100.0
弱々しい感じ	0	0 0.0	12 14.3	7 8.3	13 15.5	8 9.5	11 13.1	4 4.8	0 0.0	0 0.0	23 27.4	5 6.0	1 1.2	84 100.0
力強い感じ	1	4 4.8	1 1.2	2 2.4	1 1.2	1 1.2	0 0.0	55 66.3	15 18.1	2 2.4	0 0.0	0 0.0	2 2.4	83 100.0
激しい感じ	0	1 1.2	2 2.4	1 1.2	0 0.0	1 1.2	0 0.0	10 11.9	32 38.1	23 27.4	7 8.3	4 4.8	3 3.6	84 100.0
明るい感じ	1	22 26.5	2 2.4	1 1.2	0 0.0	1 1.2	0 0.0	3 3.6	2 2.4	47 56.6	1 1.2	4 4.8	0 0.0	83 100.0
柔らかな感じ	0	0 0.0	10 11.9	2 2.4	2 2.4	0 0.0	4 4.8	1 1.2	0 0.0	2 2.4	37 44.0	24 28.6	2 2.4	84 100.0
甘い感じ	0	1 1.2	28 33.3	4 4.8	11 13.1	5 6.0	4 4.8	2 2.4	1 1.2	1 1.2	17 20.2	9 10.7	1 1.2	84 100.0
抑圧的な感じ	0	1 1.2	20 23.8	7 8.3	10 11.9	7 8.3	4 4.8	3 3.6	0 0.0	3 3.6	16 19.0	7 8.3	6 7.1	84 100.0

PとTRの一致度が高かったものは，中学生の場合「ユーモラスな感じ」74名（88.1%），「力強い感じ」55名（66.3%）であるのに対し，高校生では「ユーモラスな感じ」151名（86.8%），「力強い感じ」105名（60.3%），「激しい感じ」111名（63.8%），「明るい感じ」152名（87.4%）であった。

また中学生と高校生で異なったTRパターンを示したのが「弱々しい感じ」と「甘い感じ」についてである。

中学生の場合では

「弱々しい感じ」(哀)を「柔らかな感じ」(楽)に，また「甘い感じ」(楽)を「哀調のある感じ」(哀)ととらえている。

これに対し高校生の場合では

「弱々しい感じ」(哀)を「哀調のある感じ」(哀)に，また「甘い感じ」(楽)を「柔らかな感じ」(楽)ととらえている。

これを表1のカテゴリーで見ると，中学生の場合はカテゴリー外で，また高校生の場合はカテゴリー内での混同が生じている。これは創作舞踊の学習経験が観賞眼の確かさに影響していることを示しているのではないかと思われる。

なお中学生・高校生ともにTPとTRの一致度が特に低かったのは，「ねっとりした感じ」（中学生0%，高校生1.1%）と「抑圧的な感じ」（中学生7.1%，高校生2.3%）であった。これはイメージがとらえにくいTPであったた

表5　高等学校全被験の TP と TR の相関図

受容・認知テーマ(TR) ＼ 表現テーマ(TP)	無答	ユーモラスな	哀調のある	ねっとりした	冷たい	重々しい	弱々しい	力強い	激しい	明るい	柔らかな	甘い	抑圧的な	合計
ユーモラスな感じ	0	151 86.8	0 0.0	4 2.3	0 0.0	1 0.6	0 0.0	1 0.6	1 0.6	14 8.0	1 0.6	0 0.0	1 0.6	174 人 100.0%
哀調のある感じ	0	1 0.6	51 29.3	61 35.1	6 3.4	19 10.9	5 2.9	1 0.6	0 0.0	0 0.0	21 12.1	3 1.7	6 3.4	174 100.0
ねっとりした感じ	0	2 1.1	1 0.6	2 1.1	12 6.9	5 2.9	0 0.0	23 13.2	119 68.4	2 1.1	5 2.9	0 0.0	3 1.7	174 100.0
冷たい感じ	0	9 5.2	6 3.4	13 7.5	26 14.9	23 13.2	2 1.1	16 9.2	2 1.1	1 0.6	3 1.7	0 0.0	73 42.0	174 100.0
重々しい感じ	0	1 0.6	37 21.3	21 12.1	18 10.3	31 17.8	30 17.2	2 1.1	0 0.0	0 0.0	12 6.9	1 0.6	21 12.1	174 100.0
弱々しい感じ	0	1 0.6	41 23.6	18 10.3	29 16.7	11 6.3	37 21.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 12.1	5 2.9	11 6.3	174 100.0
力強い感じ	0	1 0.6	0 0.0	1 0.6	0 0.0	7 4.0	0 0.0	105 60.3	53 30.5	1 0.6	0 0.0	0 0.0	6 3.4	174 100.0
激しい感じ	0	0 0.0	2 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23 13.2	111 63.8	29 16.7	1 0.6	2 1.1	6 3.4	174 100.0
明るい感じ	0	9 5.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 2.3	8 4.6	152 87.4	0 0.0	1 0.6	0 0.0	174 100.0
柔らかな感じ	1	2 1.2	7 4.0	1 0.6	1 0.6	0 0.0	3 1.7	0 0.0	0 0.0	3 1.7	94 54.3	62 35.8	0 0.0	173 100.0
甘い感じ	0	1 0.6	34 19.5	10 5.7	16 9.2	8 4.6	13 7.5	8 4.6	2 1.1	1 0.6	41 23.6	26 14.9	14 8.0	174 100.0
抑圧的な感じ	0	1 0.6	58 33.3	13 7.5	14 8.0	6 3.4	8 4.6	1 0.6	0 0.0	2 1.1	51 29.3	16 9.2	4 2.3	174 100.0

め，意図が十分に伝達されなかったことによるものと思われる。

2. 伴奏音の有無についての比較

M群およびNM群のＴＰに対するＴＲの関係は表 6，7，8，9 に示す通りである。それによるとＴＰとＴＲの一致度が高かったものは，中学生の場合，M群で「ユーモラスな感じ」37名（86%），「力強い感じ」31名（72.1%），「明るい感じ」27名（64.3%）に対し，NM群では「ユーモラスな感じ」37名（90.2%），「力強い感じ」24名（60%）であった。

高校生の場合ではM群で「ユーモラスな感じ」74名（86%），「力強い感じ」57名(66.3%)，「激しい感じ」56名（65.1%），「明るい感じ」78名（90.7%）に対し，NM群では「ユーモラスな感じ」71名（87.5%），「激しい感じ」55名（62.5%），「明るい感じ」74名（84.1%）であり，両群に大きな差異は認められなかった。

しかしながら高校生で「甘い感じ」と「哀調のある感じ」というイメージ化しにくいＴＰにおいて，ＴＲとの一致度に伴奏音の有無による差異が認められた。「甘い感じ」ではM群が23名（26.7%）に対し，NM群は３名（3.4%）であった。また「哀調のある感じ」ではM群が38名（44.2%）に対し，NM群は13名（14.8%）であり，伴奏音があった方がその一致度が高いことを示しているものと思われる。

また各ＴＰについてのＴＲの散布度（意図されたテーマに対して被験者が受容・認知したテ

表6　中学校M群の TP と TR の相関図

受容・認知テーマ（TR）／表現テーマ（TP）	無答	ユーモラスな	哀調のある	ねっとりした	冷たい	重々しい	弱々しい	力強い	激しい	明るい	柔らかな	甘い	抑圧的な	合計
ユーモラスな感じ	0	37 86.0	1 2.3	2 4.7	1 2.3	0 0.0	0 0.0	1 2.3	0 0.0	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	43 人 100.0%
哀調のある感じ	0	1 2.3	8 18.6	8 18.6	4 9.3	14 32.6	3 7.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 11.6	43 100.0
ねっとりした感じ	1	0 0.0	1 2.4	0 0.0	2 4.8	2 4.8	0 0.0	3 7.1	32 76.2	0 0.0	0 0.0	1 2.4	1 2.4	42 100.0
冷たい感じ	0	3 7.0	6 14.0	1 2.3	5 11.6	5 11.6	0 0.0	1 2.3	0 0.0	1 2.3	1 2.3	0 0.0	20 46.5	43 100.0
重々しい感じ	0	0 0.0	11 25.6	3 7.0	8 18.6	2 4.7	9 20.9	3 7.0	0 0.0	0 0.0	3 7.0	1 2.3	3 7.0	43 100.0
弱々しい感じ	0	0 0.0	8 18.6	4 9.3	8 18.6	4 9.3	7 16.3	2 4.7	0 0.0	0 0.0	7 16.3	2 4.7	1 2.3	43 100.0
力強い感じ	0	1 2.3	0 0.0	1 2.3	0 0.0	1 2.3	0 0.0	31 72.1	7 16.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.7	43 100.0
激しい感じ	0	0 0.0	2 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 14.0	17 39.5	9 20.9	5 11.6	2 4.7	2 4.7	43 100.0
明るい感じ	1	13 31.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	27 64.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	42 100.0
柔らかな感じ	0	0 0.0	1 2.3	2 4.7	0 0.0	0 0.0	2 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	20 46.5	18 41.9	0 0.0	43 100.0
甘い感じ	0	1 2.3	8 18.6	2 4.7	1 2.3	1 2.3	3 7.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3	14 32.6	9 20.9	1 2.3	43 100.0
抑圧的な感じ	0	0 0.0	16 37.2	4 9.3	8 18.6	4 9.3	3 7.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 9.3	2 4.7	2 4.7	43 100.0

ーマ数によって表現した指数）は表10に示す通りである。それによると中学生の場合，散布度の小さかったものはM群で7に対し，NM群では5であった。また高校生の場合ではM群で6に対し，NM群では2であった。残る4テーマ（TP）は同数の散布度であった。

このように，中学生・高校生ともにM群の方がTRの散布度が小さくなる傾向がみられること等，前出の[13]邦や松本[14]の指摘をあわせて考慮すれば，舞踊観賞は伴奏音を伴った方が創作者の意図を伝達しやすいのではないかと思われる。

IV まとめ

以上，今回の実験では創作された舞踊を中学生ならびに高校生に，ビデオによる映像で観賞させ，その結果をもとに舞踊表現の観賞に対する教育効果および伴奏音の効果を検討した。

その結果

(1) 中学生と高校生では，表現を意図したテーマ（TP）と被験者が受容・認知したテーマ（TR）についての大きな差異は認められなかった。

しかし「弱々しい感じ」と「甘い感じ」では受容・認知が，中学生の場合感情分類（喜・怒・哀・楽）のカテゴリー外での混同だったのに対し，高校生ではカテゴリー内での混同が生じている。これは創作学習の経験を多く積んだ高校生の方が，中学生よりも確かな観賞眼を持っていることを示すものと思われ

表7　中学校 NM 群の TP と TR の相関図

受容・認知テーマ（TR）／表現テーマ（TP）	無答	ユーモラスな	哀調のある	ねっとりした	冷たい	重々しい	弱々しい	力強い	激しい	明るい	柔らかな	甘い	抑圧的な	合計
ユーモラスな感じ	0	37 90.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.9	2 4.9	0 0.0	0 0.0	41 人 100.0%
哀調のある感じ	0	0 0.0	6 14.6	10 24.4	0 0.0	9 22.0	4 9.8	1 2.4	0 0.0	0 0.0	6 14.6	1 2.4	4 9.8	41 100.0
ねっとりした感じ	0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 7.3	33 80.5	1 2.4	0 0.0	1 2.4	2 4.9	41 100.0
冷たい感じ	1	4 10.0	2 5.0	0 0.0	6 15.0	2 5.0	3 7.5	2 5.0	0 0.0	2 5.0	1 2.5	1 2.5	17 42.5	40 100.0
重々しい感じ	0	0 0.0	8 19.5	6 14.6	4 9.8	9 22.0	8 19.5	1 2.4	0 0.0	0 0.0	2 4.9	0 0.0	3 7.3	41 100.0
弱々しい感じ	0	0 0.0	4 9.8	3 7.3	5 12.2	4 9.8	4 9.8	2 4.9	0 0.0	0 0.0	16 39.0	3 7.3	0 0.0	41 100.0
力強い感じ	1	3 7.5	1 2.5	1 2.5	1 2.5	0 0.0	0 0.0	24 60.0	8 20.0	2 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	40 100.0
激しい感じ	0	1 2.4	0 0.0	1 2.4	0 0.0	1 2.4	0 0.0	4 9.8	15 36.6	14 34.1	2 4.9	2 4.9	1 2.4	41 100.0
明るい感じ	0	9 22.0	1 2.4	1 2.4	0 0.0	1 2.4	0 0.0	3 7.3	1 2.4	20 48.8	1 2.4	4 9.8	0 0.0	41 100.0
柔らかな感じ	0	0 0.0	9 22.0	0 0.0	2 4.9	0 0.0	2 4.9	1 2.4	0 0.0	2 4.9	17 41.5	6 14.6	2 4.9	41 100.0
甘い感じ	0	0 0.0	20 48.8	2 4.9	10 24.4	4 9.8	1 2.4	1 2.4	0 0.0	0 0.0	3 7.3	0 0.0	0 0.0	41 100.0
抑圧的な感じ	0	1 2.4	4 9.8	3 7.3	2 4.9	3 7.3	1 2.4	3 7.3	0 0.0	3 7.3	12 29.3	5 12.2	4 9.8	41 100.0

る。

(2) 伴奏音の有無による比較では，特に舞踊のイメージ化がむずかしいと思われるテーマにおいて観賞の差異があらわれると考えていたが，今回の実験では特に認められなかった。

しかしながら高校生において，表現を意図したテーマ（TP）と被験者が受容・認知したテーマ（TR）の一致度に差異が認められ，M群の方がNM群よりその一致度が高くなる傾向がみられた。

また受容・認知されたテーマの散布度でみると，伴奏音を伴った方が小さくなる傾向がみられたことから，舞踊観賞は音楽を伴った方が創作者の意図を伝達しやすいものと解釈された。

なお今回の実験結果に基づいて，今後更に研究を進めて行こうとするものである。

本研究を進めるにあたり，宮城県第三女子高等学校教諭堀籠節子先生，柴田町立船岡中学校教諭小沢久子先生ならびに生徒の皆さんのご協力をえた。ここに深甚の謝意を表するものである。

表8　高等学校M群の TP と TR の相関図

受容・認知テーマ（TR）／表現テーマ（TP）	無答	ユーモラスな	哀調のある	ねっとりした	冷たい	重々しい	弱々しい	力強い	激しい	明るい	柔らかな	甘い	抑圧的な	合計
ユーモラスな感じ	0	74 86.0	0 0.0	3 3.5	0 0.0	1 1.2	0 0.0	1 1.2	1 1.2	5 5.8	1 1.2	0 0.0	0 0.0	86 人 100.0%
哀調のある感じ	0	0 0.0	38 44.2	22 25.6	4 4.7	6 7.0	2 2.3	1 1.2	0 0.0	0 0.0	10 11.6	1 1.2	2 2.3	86 100.0
ねっとりした感じ	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 10.5	4 4.7	0 0.0	10 11.6	62 72.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2	86 100.0
冷たい感じ	0	3 3.5	2 2.3	6 7.0	15 17.4	11 12.8	1 1.2	6 7.0	0 0.0	0 0.0	2 2.3	0 0.0	40 46.5	86 100.0
重々しい感じ	0	0 0.0	18 20.9	12 14.0	8 9.3	11 12.8	17 19.8	1 1.2	0 0.0	0 0.0	9 10.5	1 1.2	9 10.5	86 100.0
弱々しい感じ	0	0 0.0	18 20.9	10 11.6	20 23.3	4 4.7	15 17.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 11.6	3 3.5	6 7.0	86 100.0
力強い感じ	0	1 1.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 7.0	0 0.0	57 66.3	17 19.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 5.8	86 100.0
激しい感じ	0	0 0.0	2 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 14.0	56 65.1	13 15.1	0 0.0	0 0.0	3 3.5	86 100.0
明るい感じ	0	5 5.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.5	78 90.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	86 100.0
柔らかな感じ	0	2 2.3	3 3.5	1 1.2	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	0 0.0	3 3.5	45 52.3	31 36.0	0 0.0	86 100.0
甘い感じ	0	0 0.0	4 4.7	4 4.7	3 3.5	3 3.5	3 3.5	5 5.8	1 1.2	1 1.2	35 40.7	23 26.7	4 4.7	86 100.0
抑圧的な感じ	0	0 0.0	39 45.3	6 7.0	2 2.3	2 2.3	8 9.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 24.4	7 8.1	1 1.2	86 100.0

表9　高等学校 NM 群の TP と TR の相関図

受容・認知テーマ(TR) / 表現テーマ(TP)	無答	ユーモラスな	哀調のある	ねっとりした	冷たい	重々しい	弱々しい	力強い	激しい	明るい	柔らかな	甘い	抑圧的な	合計
ユーモラスな感じ	0	77 87.5	0 0.0	1 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 10.2	0 0.0	0 0.0	1 1.1	88 人 100.0%
哀調のある感じ	0	1 1.1	13 14.8	39 44.3	2 2.3	13 14.8	3 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 12.5	2 2.3	4 4.5	88 100.0
ねっとりした感じ	0	2 2.3	1 1.1	2 2.3	3 3.4	1 1.1	0 0.0	13 14.8	57 64.8	2 2.3	5 5.7	0 0.0	2 2.3	88 100.0
冷たい感じ	0	6 6.8	4 4.5	7 8.0	11 12.5	12 13.6	1 1.1	10 11.4	2 2.3	1 1.1	1 1.1	0 0.0	33 37.5	88 100.0
重々しい感じ	0	1 1.1	19 21.6	9 10.2	10 11.4	20 22.7	13 14.8	1 1.1	0 0.0	0 0.0	3 3.4	0 0.0	12 13.6	88 100.0
弱々しい感じ	0	1 1.1	23 26.1	8 9.1	9 10.2	7 8.0	22 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 12.5	2 2.3	5 5.7	88 100.0
力強い感じ	0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	0 0.0	1 1.1	0 0.0	48 54.5	36 40.9	1 1.1	0 0.0	0 0.0	1 1.1	88 100.0
激しい感じ	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 12.5	55 62.5	16 18.2	1 1.1	2 2.3	3 3.4	88 100.0
明るい感じ	0	4 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 4.5	5 5.7	74 84.1	0 0.0	1 1.1	0 0.0	88 100.0
柔らかな感じ	1	0 0.0	4 4.6	0 0.0	1 1.1	0 0.0	2 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	49 56.3	31 35.6	0 0.0	87 100.0
甘い感じ	0	1 1.1	30 34.1	6 6.8	13 14.8	5 5.7	10 11.4	3 3.4	1 1.1	0 0.0	6 6.8	3 3.4	10 11.4	88 100.0
抑圧的な感じ	0	1 1.1	19 21.6	7 8.0	12 13.6	4 4.5	0 0.0	1 1.1	0 0.0	2 2.3	30 34.1	9 10.2	3 3.4	88 100.0

文　献

1) 坂元彦太郎：幼児の教育構造，215，フレーベル館，1975.

2) 水谷光：ダンス指導ハンドブック，195，大修館，1975.

3) フエッツ著，金子明友，朝岡正雄共訳：フエッツ体育運動学，340，不昧堂，1979.

4) 本多弘子：Balance-stepにおける伴奏音楽の効果について，9～15，東北体育学研究5，1983.

5) 本多弘子：エアロビックスダンスの運動強度に及ぼす音楽の効果，29～35，東北体育学研究8，1986.

6) 前出[4]，15.

7) 邦正美：舞踊創作と舞踊演出，214，論創社，1986.

8) 松本千代栄：舞踊美の探究，137，大修館書店，1957.

9) 松本千代栄：舞踊の鑑賞に関する研究，79，東京教育大学体育学部紀要第3巻，1963.

10) Osgood, C. E. Suci, G. J. & Tannenbaum, P. H. The measurment of meaning. Univ. of Illinois Prss, 1957.

11) 岩下豊彦：オスグットの意味論と SD 法，川島書店，1979.

12) 前出[7] 214.

13) 前出[8] 137.

表10　伴奏音の有無による TR の散布度

（数字は TR の%）

学校	表現テーマ（TP）	伴奏者の有無（群）	散布度 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	散布値
中学生	ユーモラスな感じ	M	86	5	2	2	2	2	/	/	/	/	/	/	6
		NM	90	5	5	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3
	哀調のある感じ	M	33	19	19	12	9	7	2	/	/	/	/	/	7
		NM	24	22	15	15	10	10	2	2	/	/	/	/	8
	ねっとりした感じ	M	76	7	5	5	2	2	2	/	/	/	/	/	7
		NM	80	7	5	2	2	2	/	/	/	/	/	/	6
	冷たい感じ	M	47	14	12	12	7	2	2	2	2	/	/	/	9
		NM	42	15	10	8	5	5	5	5	2	2	/	/	10
	重々しい感じ	M	26	19	21	7	7	7	7	5	2	/	/	/	9
		NM	22	20	20	15	10	7	5	2	/	/	/	/	8
	弱々しい感じ	M	19	19	16	16	9	9	5	5	2	/	/	/	9
		NM	39	12	10	10	10	7	7	5	/	/	/	/	8
	力強い感じ	M	72	16	5	2	2	2	/	/	/	/	/	/	6
		NM	60	20	7	5	3	3	3	/	/	/	/	/	7
	激しい感じ	M	40	21	14	12	5	5	5	/	/	/	/	/	7
		NM	37	34	10	5	5	2	2	2	2	/	/	/	9
	明るい感じ	M	64	31	2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	4
		NM	49	22	10	7	2	2	2	2	2	/	/	/	9
	柔らかな感じ	M	47	42	5	5	2	/	/	/	/	/	/	/	5
		NM	41	22	15	5	5	5	5	2	/	/	/	/	8
	甘い感じ	M	33	21	19	7	5	2	2	2	2	2	2	2	12
		NM	49	24	10	7	5	2	2	/	/	/	/	/	7
	抑圧的な感じ	M	37	19	9	9	9	7	5	5	/	/	/	/	8
		NM	29	12	10	10	7	7	7	7	5	2	2	/	11

学校	表現テーマ(TP)	伴奏音の有無(群)	散布度 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	散布値
高校生	ユーモラスな感じ	M	86	6	3	1	1	1	1	/	/	/	/	/	7
		NM	88	10	1	1	/	/	/	/	/	/	/	/	4
	哀調のある感じ	M	44	26	12	7	5	2	2	1	1	/	/	/	9
		NM	44	15	13	13	5	3	2	2	1	/	/	/	9
	ねっとりした感じ	M	72	12	10	5	1	/	/	/	/	/	/	/	5
		NM	65	15	6	3	2	2	2	2	1	1	/	/	10
	冷たい感じ	M	47	17	13	7	7	3	2	2	1	/	/	/	9
		NM	38	14	13	10	8	7	5	2	1	1	1	/	11
	重々しい感じ	M	21	20	14	13	10	10	9	1	1	/	/	/	9
		NM	23	22	15	14	10	10	3	1	1	/	/	/	9
	弱々しい感じ	M	23	21	17	12	12	7	5	3	/	/	/	/	8
		NM	26	25	13	10	9	6	8	2	1	/	/	/	9
	力強い感じ	M	66	20	7	6	1	/	/	/	/	/	/	/	5
		NM	55	41	1	1	1	1	/	/	/	/	/	/	6
	激しい感じ	M	65	15	14	3	2	/	/	/	/	/	/	/	5
		NM	63	18	13	3	2	1	/	/	/	/	/	/	6
	明るい感じ	M	91	6	3	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3
		NM	84	6	5	4	1	/	/	/	/	/	/	/	5
	柔らかな感じ	M	52	36	3	3	2	1	1	/	/	/	/	/	7
		NM	56	35	5	2	1	/	/	/	/	/	/	/	5
	甘い感じ	M	41	27	6	5	5	5	3	3	3	1	1	/	11
		NM	34	15	11	11	7	7	6	3	3	1	1	/	11
	抑圧的な感じ	M	45	24	9	8	7	2	2	1	/	/	/	/	8
		NM	34	22	14	10	8	5	3	2	1	1	/	/	10

Effects of Accompaniment upon Dance Appreciation

Hiroko HONDA, Toshiaki SUZUKI and Tetsuji KAWAGUCHI

How do we combine motion and accompaniment recognition to generate images of dance expression? Many alternatives may exist between two extremes: all images may be generated solely by motion factor: or all images may come from accompaniment factor. In order to determine the effect of accompaniment factor, experimentally controlled dance appreciation of video recorded 12 short Compositions was investigated. High school and junior high school female pupils completed a set of experiments. Data indicated that image generation processes of the greater part of themes were dominated by motion factor but of vague themes, such as "stickiness" or "suppressiveness", were largely compensated by accompaniment factor. Results were discussed in terms of dance education and general theory of affective meaning system.